

カトリック

広島教区報

No. 111

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

新年に当たり、神様の祝福が

皆さんの上に豊かにありますように

アレキシオ 白浜 満 司教

「祈る使命」を土台に
「福音を伝える使命」に
向けて

主の降誕の喜びのうちに
新年がスタートしました
が、社会が「年度」という
区切りで動いているため、
一月〜三月はどちらかと言
えば、二〇一七年度の締め
くくりの時期に位置づける
ことができます。教区創立
百周年（二〇一三年）を準
備する取り組みの第二段
階「教会へのチャレンジ」
の一年目に、わたしたちは



白浜 満 司教

大西助祭 司祭叙階式 久保神学生 助祭叙階式

日 時：3月21日（水・祝）13：00～

場 所：カトリック山口教会
山口サビエル記念聖堂
山口市龜山町 4-1 TEL 083-920-1549

司 式：アレキシオ 白浜 満 司教

受階者：ヘルマン ヨセフ 大西 勇史 助祭
ヨセフ 久保 裕己 神学生



大西勇史助祭



久保裕己神学生

職）に注目し、わたしたち
の取り組みを振り返って来
ました。さらに、わたした
ち（教会）は主イエスカ
ら、「全世界に行って、す
べての造られたものに福音
をのべ伝えなさい」（マル
コ十六・十五）という命令
を受けていることを、とく
に四月から始まる二〇一八
年度のテーマにして行きた
いと思います。
（二頁に続く）

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で
「だからね」という意味。

白浜司教メッセージ・じゃけえのう・教区の動き
世界平和記念堂・災害サポートセンター
典礼の窓・JICA R M 広島便り
地区・海峡からの風・広島教区の施設
青少年・ひと粒

一〜三面
四面
五面
六〜七面
八面

クリスマスと新年、おめでと
うございます。◆先日行われ
たクリスマスミサ。私は、侍
者の奉仕をする子ども達の姿
にとても感動しました。◆ま
ず、黒い侍者服を着ている中
高生。言うまでもなく、本当
にかっこいい。これはもう、
幟町教会に来て是非見ていた
だきたい！さすが、神様に選
ばれている子達は、責任感が
違います。大人の入る余地な
どありません。◆そして、そ
の傍で赤い侍者服を着て奉仕
をしているのは小学生。一人
ひとりキラッと光るものがあ
ります。みんなに共通する
事は、喜んで奉仕をしている
という事。拝領の歌で「もろ
びとこそぞりて」が流れた時、
司教様の隣に立っている男の
子がノリノリで歌い始めたん
です。喜びに満ちあふれてい
るその姿はとても象徴的で、
私は温かい気持ちになりま
した。◆「いつも喜んでいな
さい」と聖書は言っています
が、なかなか難しいし、きつ
と忘れてしまっている。今年
のクリスマスは、子ども達を
通して、イエス様が私のとこ
ろに来てくれました。◆私は
この春で、高校を卒業して四
年目に入ります。節目の年。
これからの事を考えて、どう
しようもなく怖くなる事があ
ります。そんな時思い出すの
は、ある友人がくれたこの言
葉。「わたしたちきつとだい
じょうぶ。神様と、イエス様
といっしょだから。祈ってる
よ!!」◆春は出会いの季節で
す。新たな巡り合わせの中
で、また神様と出会いたい。
そして私もまた、誰かに神様
の愛を伝えられる人になりた
いです。いつも、喜びのうち
に。

（青少年情報センター

益田 なお）

協働体制の導入

日本の社会の少子高齢化という現状の中で、教会もその煽りを受けています。しかし、わたしたちは神の恵みに信頼し、福音をのべ伝える使命のために、互いに協力して働く体制を整えて行きたいと思えます。そのために、昨年二月二十七日(月)～二十八日(火)に開催された「教区司祭大会」で提案され、教区宣教司牧評議会などで検討してきた「協働体制」を、二〇一八年度からスタートします。「協働体」(きょうどうたい)とは、地理的な区分ではなく、隣接する複数の小教区・巡回教会・集会所、センター、修道院、カトリックの教育機関(大学、高等学校、中学校、小学校、幼稚園、保育所など)や他の施設で働く、すべての司祭・修道士・(国籍を超えた)信徒が、教会の使命をよりよく果たしていくため、「ともに協力しながら働く人の共同体」を意味します。聞き慣れない「協働体制」とは

どういうものであるのかについて、次回の広島教区報と共に、皆さんには、もっと詳しい「説明文書」を配布する予定です。その趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いしたいと思います。

信徒カテキスタの養成

また、広島教区では、福音をのべ伝える使命のために、同じように昨年の「教区司祭大会」で提案され、同じように教区宣教司牧評議会などで検討を続けてきた「信徒カテキスタ」の養成を、二〇一八年度四月から取り組んで行くことになりました。その最終的な準備のために、今年も、一月二十九日(月)～三十日(火)に「教区司祭大会」を開催することになっています。これについても、後日、皆さんに詳しくお知らせしたいと思います。これらの新しいチャレンジのために、今年も引き続き、皆さんの祈りとご協力を、どうぞよろしくお願いします。

教区の動き

平和の使徒推進本部

二〇一七年度(第二回)

広島司教区宣教司牧評議会開催

去る十二月九日(土)、二〇一七年度第二回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催され、白浜司教、司祭、修道者、信徒の二十六人が出席した。

教区宣司評は、白浜司教の挨拶と祈りから始まった。「教区の大きな流れを決めていく会議です。忌憚らない意見をお願い致します。」

野中神父(平和の使徒推進本部長)から「平和を作っていくためには、一人ひとりが大切にされなければならぬ。この会議において、皆さんで考えて行きましょう。」の挨拶に続き、次のことが話し合われた。

議題は、世界平和記念聖堂保存活用委員会からの保存修理工事の状況報告

から始まり、続いて二〇一七年度『祈る使命』を推進していくために、白浜司教から次の四つの提案が出された。

- ① 教区の祈祷書「家庭の祈り」の出版。既にある「家庭の祈り」に他の祈り

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

教会スタンプラリー完了

- 第0031号 清水フロールデリザ (幟町教会)
- 第0032号 運崎ジョセリン (幟町教会)
- 第0033号 行友レイア (幟町教会)
- 第0034号 戸澤ロサリー (幟町教会)
- 第0035号 瀬尾俊則 (幟町教会)
- 第0036号 丸本伸二 (幟町教会)

④ 世界平和を祈願する永久聖体礼拝の実施可否について。名古屋教区で昨夏行われた永久聖体礼拝を参考に、世界平和記念聖堂でできないか？

を追加して、出版を検討したい。日本版と英語版の二種類。

- ② 広島教区版「堅信式の式次第」の出版。教区典礼委員会の編纂により、堅信式の準備に役立ててもらおう。復活祭頃の出版を目指す。
- ③ 「聖体授与の臨時の奉仕

続いて議題は、二〇一八年度『伝える使命』を迎えるにあたり、教皇フランシスコの使徒的勧告「福音の喜び」を学びながら、「出向いて祈り、伝え、仕える教会づくり」を推進し、「伝える」ために祈りを「蓄え」、そして行動を始めて頂きたいとの願いから、次の提案が出された。

- ① 「聖書写教(写経)」「リレー(二〇二三年に向けて)」の実施。
- ② 小教区内の小グループ



教区宣教師司牧評議會の様子
場所：広島カトリック会館多目的ホール

(地区会等)での聖書
通読と分かち合いの推
進。

次の議題は、「教会への
チャレンジ」推進のため
に、白浜司教から次の四つ
の提案が出された。

※①②の詳細は二頁の司教
メッセージを参照。

①『協働体制』の導入。

二〇一八年四月から予
定通り「協働体制」を
導入することを決議し
た。詳細内容は、復活
祭の頃、司教メッセー
ジとして教区民に配布
予定。

②信徒カテキスタの養成。

③教区要理の編さん。教区

要理編さん小委員会に
て作業中。

④在日外国籍の方の日本に
おける教会籍の作成。

永住する在日外国籍の
方を、近隣の小教区で
教会籍を作って頂く。

次の議題は、平和の使徒
推進本部から次の提案が出
された。

①『社会司牧デスク』設
置。二〇一八年四月か

ら、平和の使徒推進本
部内に社会司牧のため
のデスクを設置するこ
とを決議した。野中神
父(総責任者)、中井
神父(担当責任者)、
専従職員一名をスタッ
プとする。

教区宣教師評の後半は、各
地区・ブロックからの報
告、出席した評議員から
色々な報告、その他諸連絡
があった。

以上のことが話し合わ
れ、祈りと祝福のうちに三
時間の教区宣教師評を閉会し
た。

意見や要望などは、平和
の使徒推進本部まで。

「教会へのチャレンジ」ポスター
最優秀賞は、^{かみやま}祇山有希子(呉教会)さん
優秀賞は、小野 剛(防府教会)さん、
吉岡麻紀(倉敷教会)さん、
東広島教会日曜学校

「教会へのチャレンジ」ポ
スター審査会報告

「教会へのチャレンジ」
の三年間を有意義に過ご
し、また諸活動を活性化さ
せていくために、平和の使
徒推進本部では「教会への
チャレンジ」ポスターを募
集しました。応募総数十三
点(一般の部五点、子ども
の部八点)、審査員を白浜
司教、服部教区事務局長、
野中本部長、高井真一さん
(北若山教会所属)にお願
いし、昨年十一月二十五日
(土)に広島司教館にて審
査会が行われました。

審査にあたって、「教会
へのチャレンジ」の三年間



最優秀賞の祇山有希子さんの作品

使用することができる作品
ということを意識して選考
され、以下の通り、各賞が
まきました。なお、子ど
もの部は意図に沿う作品が
少なかったため、最優秀賞
はありませんでした。

最優秀賞

祇山有希子(呉教会)

優秀賞

小野 剛(防府教会)

吉岡麻紀(倉敷教会)

東広島教会日曜学校

特別賞

倉敷教会

(多数応募が評価 六点)

各賞の皆さんには、記念

きぼうの電話
苦しい気持ちをお話ください。
心を開いて待っています。

082
221-0628
月～土 午後1時～4時
日曜・祝日は休み

教区民の皆さん、次回
チャレンジ募集の際には、
ぜひ多数ご参加ください。
(平和の使徒推進本部)

重要文化財
世界平和記念聖堂
記念聖堂の
これからの課題

司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の保存修理事業の推進管理を担当している保存活用委員会では、幟町教会と協働して、記念聖堂の献堂の意義と教会の平和を伝える活動にも取り組んでいる。平和巡礼者への聖堂案内、パンフレットの制作、市民クリスマスミサや原爆死没者のための平和祈願ミサ、パイプオルガン定期演奏会、小中高生の平和学習などである。聖堂に訪れる巡礼者は年間約五千人ほどにもなる。多い年には八千人も来堂されている。これらの巡礼者に聖堂を公開・活用する活動には、文化庁の地域活性化事業という新たな補助制度が用意されている。保存修理事業の完工までに、献堂の歴

史資料の展示方法、ビデオを活用した音声案内など地域活性化事業の検討を急ぐ必要がある。

現在、取り組んでいる記念

聖堂の耐震工事などの保存修理事業は、戦後に建設された近代建築物を国の重要文化財として保存することに目的がある。文化財指定の説明文には、記念聖堂が「原爆で破壊された広島市の街の戦後復興の先駆けとなる建物」と書かれている。悲嘆に暮れる広島市民に記念聖堂が希望と勇気を与えた建築物の一つであり、文化財として保存するに値する建物でもあるとしている。

記念聖堂と同時に重文に指定された広島原爆資料館も同様である。世界的に名の知られる村野藤吾氏や丹下健三氏がデザインした近代建築物であるという理由だけではなく、原爆により焦土と化した広島

の復興を願い、平和のために建設された記念碑としての建物であるというところに保存すべき大きな理由がある。

核兵器禁止条約の批准を推進する国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)



外壁工事のための保護シートで覆われた聖堂



地下聖堂での平和学習の様子
不二聖心女子学院 2017/9/15

N)に昨年のノーベル平和賞が授与された。被爆地を抱えた広島市や広島県も禁止条約の批准に積極的に活動している。広島教区の司教座聖堂でもある記念聖堂が原爆により破壊された教会の焼け跡に建設された教会堂であることを忘れてはならない。平和を求めめる活動に何かしらの役割を担う責任が私たちに預けられている。自ら原爆を体験し、原子爆弾の非人道的な破壊を眼のあたりにし、聖堂建設に奔走したイエズス会の主任司祭フーゴ・ラサール(日本名「愛宮真備」エノミヤ・ラサール)神父の平和を求めめる祈りは、鐘塔に置かれた聖堂記の碑文に残されている。この機会にじっくりと再読されたい。

広島教区災害サポートセンターは、一昨年より、広島教区内から参加者を募集し、東日本震災による被害、とりわけ福島第一原発による影響を視察するため、福島県を訪れている。第二回として、二〇一七年十月十二日(木)〜十四日(土)の日程で福島の原町、浪江町、富岡町、飯館村、川俣町などの視察が行われた。

世界平和記念聖堂募金
郵便振替口座

口座名義：カトリック広島司教区
口座番号：01320-3-109791

*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

第二回「東北・福島視察旅行」報告

広島教区
災害サポートセンター

かつたかのように暮らしているように見えました。しかし、放射能被害によって長い間、帰宅困難地域になっていて、最近になってやっと一部帰宅できるようになった浪江町や富岡町では全く様相が異なっていました。住宅や店舗の建物はそのまま残っていても、誰も住んでいない廃墟のようなありさまで、町で見かけるのは住民が戻ってこられるように、環境整備のために働いている作業員や公務員です。住民が戻ってこなければ、彼らの努力が報われる事もないと思うと心配になります。多くの住民が戻って、普通の暮らしができるようになるのに、さらに長い年月がかかるような気がします。同じ福島でも地域によって復興の速度がずいぶん違う事を考えさせられる旅でした。

第二回視察の報告②

(彦島教会 福永孝章)

私は、昨年に続きこの度も参加しました。福島の復興は、まだまだ見えません。去年まであった家が解体されていたり、窓ガラスのない家、朽ちた屋根や壁、まだ新しい家、ただし人の気配はなく、周囲は雑草に覆われていきます。これらの住宅の変化を見張りました。また、相変

第二回視察の報告①

宿泊した相馬市松川浦の旅館からながめた漁村の風景は津波が港を襲った事などまったく想像できないほど、きれいに整備され、人々も何もな

わらずの黒いビニール袋(回収した汚染土が入っている)の山積みを見て、出口のないトンネルを想像して胸が痛みました。

(下松教会 尼崎貴代美)



参加者での集合写真(三本松教会) 原田豊己神父を囲んで



シリーズ「典礼の窓」では、白浜司教による典礼の解説を掲載します。

「典礼」は、わたしたちの現実の世界から神秘の世界へと招く「窓」に喩えられることがあります。窓を開けると、新しい空気が入ってきます。また、窓を開くと目の前の視界が開けます。同じように、「典礼」にも、「窓を開く」こ

とに類似した二重の恵みがあるとされています。

「典礼」は、「ことば」と「しるし」を媒介として

表面的には人間が行う「儀式」という形でしか示され

ませんが、目には見えなく

ても、神の新しい息吹(聖

霊の恵み)と神のことば

(思い)が注ぎ込まれるの

です。また、そのことに

よって、人間の心の目が

「神秘の世界」に向けて開

かれていくのです。

主の降誕のミサの叙唱の

中で、司祭は次のように祈

りました。「・・・人とな

られたみことばの神秘に

よって、わたしたちの心の

目にあなたの栄光の光が注

がれ、見えるものとなられ

た神を認めることによっ

て、見えないものへの愛に

強く惹かれます。」わたし

たちの心の目に、神の栄光

を認める信仰の光が注が

れ、幼子イエスのうちに

「見えるものとなられた神

を認める」ことから、神秘

の世界への視野が開かれて

いきます。人となられた神の子イエスの降誕は、キリスト教の典礼の基礎です。

J-CaRM広島便り 山口島根地区からの報告

地区大会への参加

昨年、九月十八日に聖ザビエル教会で山口島根地区大会が開催されました。

この大会に今回も在住フィリピン人の多くの参加を得、広場に設置されたステージで寸劇・ダンス・歌が練り広げられました。山口県・島根県の各地域に住んでいる皆さんが、何回も集まり、練習した結果を披露してくれました。フィリピン人と一口に言っても出身地域・島によつて異なることが多く、中々彼らを一つにすることは難しいのですが、数名の方がリーダーシップを発揮してくれました。リーダーの方は「やれば出来るではないか」という自信、参加者の間では「まとまってやった満足感」が生まれました。これは今後の活動に大きな影響を与えそうです。今年の四旬節にもあることを企画していますが、良い結果が生まれることを期待しています。

技能実習生のトラブル発生・解決

技能実習制度の充実により、今日までアジア諸国(中国、イ

ンドネシア、タイ、フィリピン、ベトナム等)から多くの若者が来日し諸技能の習得に頑張っています(製造業、建設業、農業、食品産業等で)。皆さん方の教会でも多くの若者がミサに参加していると思えます。最近では山口県ではベトナムの若者の人数がフィリピン人の若者より多くなつてきています。またごく最近ではミャンマーの若者もこの制度を活用して来日を始められています。東南アジアには行かなくても、これらの国の人達を知る事が出来るほどです。

彼らは来日に当たっては、自国で日本語学校での基礎勉強、渡航費用の前借をして来ています。そして三年間の技能実習の間に、①技能の習得、②日本語のレベルアップ、③少ない給与の中でも節約に励み、借入金の返済、親への送金等、一生懸命に頑張っています。ミサ後には彼らと話をされた方々は実感しておられると思いますが、「性格が非常に純粋、真面目、頑張り屋さん等」の印象を持てます。

しかし彼らが全員三年間の実習を問題なく送れているかと言うとそうではないのです。肉体的あるいは言葉による厳しい対応、長時間労働、報酬の不払い、パスポートの不正保管等

があり、その件数は、昨年は二〇〇三年以降で最悪の数値に達しているようです。私たちの耳に入り対応が出来たケースの一部を紹介いたします。広島教会に來ている二十代前半のフィリピンの青年二人のケースですが、残念な対応をする雇用者から受けた痣、傷が沢山ありました。このケースは労働組合の専門家(土屋さん)と通訳のR・ロゼラさんの支援で解決が出来る、この若者はいま別の会社で働いています。

七月二十三日、下松の教会でフィリピン人を対象に開いたセミナー(日本の労働法と労働者の権利について)では広島から来てもらった社会労務士の小松さんと通訳のローズマリーさんのお陰で、研修の解約、送還寸前の若者一人の問題が解決出来ました。いずれの問題も単なる善意だけでは解決できません。専門的な知識が必要で、経験を保持しておられ方たちの協力・支援が必須です。研修生の増加につれ今後はもっと問題が出るでしょう。問題は初期に把握し、専門家の協力で解決したいものです。小教区に來ている若者との対話を増やし、問題があるようでしたらJ-CaRMの担当者につないでいただければと思います。

地区便り

山口島根地区

※きらめく聖堂一千人見とれる

山口・クリスマス市始まる

日本ではじめてクリスマスが祝われたと伝えられることにちなみ、十二月には「クリスマス市」に変貌する山口市で一日、その幕開けのイベントが開かれた。山口サビエル記念聖堂で、聖歌の演奏や聖堂のライトアップがあり、一千人以上が訪れた。



ライトアップされた、山口教会サビエル記念聖堂

聖堂内では聖歌隊の演奏や近くの山口天使幼稚園の園児たちによる合唱などで、クリスマス市の始まりを厳かに祝福した。続いて聖堂の前庭では、室町時代の守護大名・大内義隆と

宣教師フランシスコ・サビエルとの出会いや聖堂の歴史を、サーチライトや色とりどりのレーザー光線で見守る。市内から両親と訪れた少女は「黄色や緑、紫とか、いっぱい色があつてきれい」と見られていた。(2017/12/04 朝日新聞記事から)

※生中継で動画配信

山口島根地区典礼研修会(講師 白浜司教)が一月二十七日(土)十三時からカトリック宇部教会で開催されます。その典礼研修会を生中継で配信します。スマホ、PCでチャンネルアドレス (<http://ustream/1Ae02>) にあわせて観覧することができます。



動画の生中継サイトQRコード

広島地区

※第三回地区宣教司牧評議会および連絡会

日時：一月十四日(日) 十四時～十六時
場所：広島カトリック会館多目的ホール

※地区女性連合会ミサ・研修会

日時：一月二十六日(金) 十時～十五時
場所：世界平和記念聖堂、マリアホール

ミサ・講話：白浜司教

※広島キリスト教一致祈祷集会

日時：一月二十八日(日) 十四時半～
場所：観音町教会
担当：作道宗三神父

※第二十二期「聖体授与の臨時の奉仕者」養成コース

ブローニアップ講座
日時：二月四日(日) 十四時～十六時半
場所：広島カトリック会館多目的ホール

※平和アピール1981「広島から、平和を考える」

日時：二月二十五日(日) 九時半ミサ～十二時半
講師：梶山義夫神父(イエズス会)

場所：世界平和記念聖堂、カトリック会館多目的ホール

※地区教会学校リーダー大会

二〇一七年度第二回研修会
「信仰継承」神さまに愛

海峡からの風 47

下関労働教育センターだより

ただなかで祈る

韓国済州島の江汀(カンジョン)村は、二〇〇七年に米海軍基地の建設予定地とされましたが、住民投票により基地建設反対を決め、環境保護団体や宗教団体の賛同を得て反対運動が始まりました。

わたしは二〇一五年この江汀村を訪れる機会を得ました。住民や支援団体の必死の行動も空しく基地建設は大詰めを迎えていましたが、基地の正面ゲート前では毎日ミサが行われ多くの信徒、修道者、司祭が祈りをささげていました。

場所が正面ゲート前なのでミサの途中に資材搬入のためのトラックが入って来ることもありまます。その時にはミサは中断され参列者は椅子に座ったまま警察官の手で移動させられました。が、トラックの隊列が過ぎ去ると人々はまた何もなかったかのように椅子を持って移動し、ミサが続けられていくのでした。

現地に出向き、人々と共に行動に参加することは普段から心にかけていただけ、わたし

はまだ辺野古・高江でも原爆ドーム前でもミサにはあずかっていません。世界平和記念聖堂で平和のために祈ることは本当に大切なことだけれど、苦しみと対立のただなかでミサをささげることが、キリスト者の行動の大切な部分であることを韓国の教会の人々から改めて教えてもらいました。

翌年の六月正平協の大分集会のオプシオンで伊方原発に行つたとき、正面ゲート横の道路脇で原発に頼らない安全で平和な世界を願って、再稼働反対の思いを込めて参加者でミサをささげました。本当に小さな祈りの輪だったけれど、昨年十二月に広島高裁での野々上友之裁判長による伊方原発三号機運転を禁じる決定を聞いた時、神様の働きを感じました。

「教会へのチャレンジ」を通してキリストの祈り、伝え、仕える使命に与ろうとするわしたち。教会の敷地を出て赴いていく先を、これからは本気で探し、神様の呼びかけを受け止めていきたいと思ひます。

(シスター 山本 紀久代)

されているから」とが昨年十二月二日(土)三篠教会で行われた。講師に片柳神父をお迎えし、午前は「マザー・テレサの言葉に学ぶ」をテーマに子育て世代へ向けてのお話、午後からは信徒へ向けてフランススコ教皇使徒的勧告『福音の喜び』序文よりお話をいただいた。

参加者は広島市近隣幼稚園保護者・信徒・青年、合わせて四十八人。

次回は、二月四日(日)九時半ミサと十二時半、場所は幟町教会、講師は白浜司教で行われる予定。

伯雲協働体

***伯雲協働体勉強会**

昨年十月二十二日(日)、米子教会の二階ホールで白浜満司教の指導のもとに松江・出雲・米子の伯雲協働体の勉強会を開催しました。この勉強会に倉吉教会からの参加もあり、総勢六十名を越える信徒の参加となりました。



米子教会での勉強会の様子

当日は、台風二十一号の強風と打ちつけるような大雨までも一緒に米子に集まったみたいでしたが、風雨にも負けず集まった信徒は、真剣な面持ちで白浜司教のお話に耳を傾けていました。

お話は、十時から十三時まで、典礼について何故このような形・流れになっているのかの説明を受けました。典礼の勉強会の後に白浜司教の司式でミサに与り、ミサ中に米子教会の聖体奉仕者(四名)の任命式も併せて行われました。

岡山鳥取地区

***三刀屋「永井隆博士平和祈念ミサ」**

昨年十一月二十三日(木・祝日)、伯雲協働体主催で、雲南市三刀屋町の

アスパルを会場に「永井隆博士平和祈念ミサ」を長崎にゆかりのある光教会主任司祭の肥塚神父の司式で行いました。またミサ後に浦上キリシタン資料館館長岩波智代子様の「永井隆博士の浦上復興計画」と題した講演会が催されました。

岩波館長のお話で改めて永井隆博士がいかに平和を望んでおられたのか、体が動かなくなつて寝たきりになつても、平和を伝えるため自分にできる『本の執筆で、平和と浦上の復興を願う一助に』なればと、最後の最後まで「今、自分にできることを行う」という素晴らしい姿勢を聞くことができました。



左から、服部神父、野崎神父、後藤神父、肥塚神父、ミカエル金神父、荻神父

広島教区の施設 (36)
ノートルダム清心女子大学

一九二五(昭和四)年に建築されたノートルダムホール本館と東棟は、外壁を真っ白に塗られた鉄筋コンクリート造の建物です。設計者は現在のチエコ共和国に生まれた建築家のアントニン・レーモンド(二八八八〜一九七六)。



大学聖堂

日本における昭和初期のモダニズム建築として貴重な存在であり、今も当時のままで使われ続けている素晴らしい建築遺産であることから、二〇〇七(平成十九)年七月に文化庁から国の登録有形文化財として登録されました。

竣工当初は白亜の殿堂と称されていた校舎も、戦争時には空襲を避けるため黒く塗られた歴史があります。一九四五年六月二十九日の岡山空襲では、岡山清心女子専門学校と清心高等女学校の生徒合わせて十四名の尊い命が失われました。戦前に建てられながらも奇跡的に戦災にはあわず、そのまま

跡的に戦災にはあわず、そのまま



前方は東棟・聖堂、後方は中央棟

の形を残し続けてきた校舎は、本学におこった悲しい出来事を、行き交う多くの学生たちに伝える生き証人でもあります。ノートルダムホール東棟の二階部分には大学聖堂があります。静かに思索したり祈ったりするために、この大学で学ぶすべての人びとが自由に出入りできるように開かれています。左上写真、聖堂の後方にそびえるのは一九九五(平成七)年に竣工したノートルダムホール中央棟です。約九十年前に建築された伝統的な建物と現代的な建物が調和して立ち並ぶ姿は、「変えてよいものと変えてはいけないもの」を常に見定めて歩む本学のスピリットを象徴しています。また本学では、昨年四月、シスター津田葵が理事長に原田豊己神父が学長に就任いたしました。

青少年の活動



十二月二十三日に鞆町教会で、「広島教区クリスマスパーティー〜クリぼっち防止大作戦二〇一七〜」が行われた。毎年恒例となっているクリスマスパーティー。世間では「クリぼっち」という言葉が流行っている。そんな中で教会に来ればイエス様が、仲

間が、ともに居るといふ思いを込めて、今年も「クリぼっち防止大作戦」と題した。この呼び掛けをもとに、広島市内の教会に所属する青年をはじめ、隣接するエリザベト音楽大学の学生、神学生、司祭など約三千名が集った。

出し物として、音楽大学の学生による演奏、ビンゴゲーム、そして各々が用意したプレゼントを交換した。パーティーの終わりに、フランスで待降節に歌われる「Aube Nouvelle」（日本語で「新しい夜明け」）を白浜満司教がプレゼントしてくださり、幕を

閉じた。久しぶりに顔を出した人や初めて訪れた人など、新しい出会いと繋がりが広がって行き、ともに主の降誕の喜びを分かち合い、温かな気持ちを持ち帰って多くの人と分かち合ってもらえたら嬉しい。今回参加してくださったすべての人の心に愛と喜びの光が届いていますように。



「日本の教会への再突入！」
援助修道会 シスター小野鳥照子

五十歳になる三か月前、十五年間海外で働いて帰国した私は、故郷広島で、しかも受洗教会の鞆町教会への思いがけない派遣をいただき、「帰国子女」として日本社会に再適応するには最良の環境で働かせて貰う事になった。

まず最初に当時の地区長・早副神父が「あんた外の空気を入れてくれ！臨時の聖体奉仕者を養成する為に何年も話

し合いをしたが進まない。フィリピンやアメリカでは既に信徒が聖体奉仕をしている現実を話してくれ」と体験を紹介出来るチャンスをおいただき喜んで参加。そして、斎藤主任神父は、「信徒が積極的に広島市民にこの教会を市民紙、ラジオ、テレビを通して紹介し、たくさんの方が教会に来るようになったので、その受け入れと、マリアホールを使って教会の活性化に役立つ事は何でもしてください」と言われ、当時の信徒リーダー達は「活動は、私達がしますが、それがばらばらな活動にならないように軸に皆が繋がっておれるようにシスターはそこ

についてください」と不思議な

「深い指令」をくださった。それは第二ヴァチカン公会議後に、日本の教会がその精神を生きる為に開催した「NICE」I・IIに皆が燃えている頃で私に日本にいない頃のこと。信徒使徒職に燃えている信徒達との出会いで多くを学んだ。

私はまず、求められるままに平和都市広島の街中・並木通りのおどろ屋で月一回世界平和を祈願してテゼの祈りの集いをエキュメニカルで始めた。教会では、市民クリスマスを通して教会を知ってやって来る人々の為の入門講座や子育てに悩む母達の心のケアをする集いを始め、精神障害者を家族に抱えて悩む家族が集う自助グループや、救いを求めて薬をも掴む思いで、小教区を超えて教会を訪れる信者や未洗者の叫びを聞く為に個人面談も始めた。これらは今日まで続いているが、あつという



「深い指令」をくださった。それは第二ヴァチカン公会議後に、日本の教会がその精神を生きる為に開催した「NICE」I・IIに皆が燃えている頃で私に日本にいない頃のこと。信徒使徒職に燃えている信徒達との出会いで多くを学んだ。

私はまず、求められるままに平和都市広島の街中・並木通りのおどろ屋で月一回世界平和を祈願してテゼの祈りの集いをエキュメニカルで始めた。教会では、市民クリスマスを通して教会を知ってやって来る人々の為の入門講座や子育てに悩む母達の心のケアをする集いを始め、精神障害者を家族に抱えて悩む家族が集う自助グループや、救いを求めて薬をも掴む思いで、小教区を超えて教会を訪れる信者や未洗者の叫びを聞く為に個人面談も始めた。これらは今日まで続いているが、あつという

これからも神様が導かれるままに、現場からの呼びかけに応答する事が出来るように祈念しつつ。

第52回中国フロックカトリック高校生大会
My Treasure
～わたし達は繋がっている～
3月24日(土)～27日(火)

場所：広島学院中学校・高等学校
対象：現中学3年生～高校3年生
問合せ：大西勇史助祭
詳細は各小教区配布の案内をご覧ください



ファティマの聖母像のレプリカが教区内を巡回している。新しい教区の平和のシンボルとなることを願いたい。(み)